鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔第 2 号被保険者調査〕

令和 8 年 3 月

鈴鹿亀山地区広域連合

目次

Ⅰ　調査の概要……1
1　調査の目的……1
2　調査の方法……1
3　配布・回収数……1
4　報告書の見方(注意事項)……1
Ⅱ　調査結果……3
1　ご本人のことについてお伺いします……3
2　介護に関する考え方についてお伺いします……8
3　健康についてお伺いします……13
4　将来の介護や在宅医療についてお伺いします……18
5　認知症についてお伺いします……24
6　地域のたすけあいについてお伺いします……31
7　介護や保健福祉に関する相談についてお伺いします……56

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

この調査は、令和 9 年度から実施する「第 10 期介護保険事業計画」の策定作業の中で、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2　調査の方法

①	調査対象地域	鈴鹿亀山地区全域
②	調査対象者	鈴鹿亀山地区にお住まいの 40～64 歳の介護保険の被保険者のうち 55 歳以上で介護保険の要支援・要介護認定を受けていない方
③	調査期間	令和 7 年 12 月(調査基準日は令和 7 年 11 月 15 日)
④	調査方法	郵送によって配布し、調査票またはウェブにて回答・回収

3　配布・回収数

配布数	未着数	有効配付数	回収数	回収率	白紙等	有効回収数	有効回収率
1,000	3	997	463	46.4%	3	460	46.1%
うち調査票			278	27.9%	3	275	27.6%
うちウェブ			185	18.6%	―	185	18.6%

4　報告書の見方(注意事項)

① グラフおよび表中の n 数(number of cases)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。

② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(n 数)を分母として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。

③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(n 数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。

④ 令和 4 年度に実施した前回調査（第 9 期介護保険事業計画の策定にかかる調査）において同一の設問を行っている場合は、前回調査との比較を行っています。その際、前回調査については「第 9 期調査」と表示しています。

⑤　選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
⑥　参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答数の少ない属性についてのコメントは控えている場合があります。
⑦　クロス集計においては、該当する相互の設問の「無回答」や「不明」を除く有効回答数を分母として、比率を算出しています。
⑧　地区別クロス集計については、日常生活圏域である『鈴鹿第1』、『鈴鹿第2』、『鈴鹿第3』、『鈴鹿第4』、『鈴鹿第5』、『鈴鹿第6』、『鈴鹿第7』、『鈴鹿第8』、『亀山第1』、『亀山第2』の10区分での集計を行っています。
⑨　性・年齢別クロス集計については、性別の回答区分のうち「回答しない」は回答者数が少数であるため、匿名性への配慮から掲載を省略しました。なお、表中の合計や構成比は、集計対象の範囲により全体値と一致しない場合があります。

Ⅱ　調査結果

1　ご本人のことについてお伺いします

問 1　あなた（封筒のあて名の方。以下同じ。）の性別をお答えください。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=458、第 9 期調査 n=466】

「女性」が 53.5%、「男性」が 45.9%となっています。

	第10期調査	第9期調査
男性	45.9%	46.4%
女性	53.5%	53.6%
回答しない	0.7%	

問 2　令和 7 年 11 月 15 日現在のあなたの年齢をお答えください。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=455、第 9 期調査 n=467】

「60～64 歳」が 52.5%、「55～59 歳」が 47.5%となっています。

	第10期調査	第9期調査
55～59歳	47.5%	53.3%
60～64歳	52.5%	46.7%

問 3　あなたのお住まいの地区は、次のどちらですか。わからない場合は町名を書いてください。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=438、第 9 期調査 n=461】

「玉桜」が 9.8%で最も多く、「牧田」が 7.1%で続いています。

	第10期調査	第9期調査
加佐登	3.9%	3.5%
石薬師	3.7%	2.2%
久間田	0.9%	0.7%
椿	0.2%	0.9%
深伊沢	0.7%	0.9%
鈴峰	0.9%	1.3%
庄内	0.5%	1.1%
国府	3.0%	3.9%
庄野	2.5%	2.2%
牧田	7.1%	5.9%
井田川	1.6%	1.5%
河曲	3.7%	4.6%
一ノ宮	3.4%	2.0%
神戸	4.3%	2.6%
長太	2.3%	3.7%
箕田	2.3%	1.7%
若松	2.7%	3.0%
玉桜	9.8%	8.9%
稲生	4.6%	4.6%
飯野	5.3%	5.2%
白子	3.9%	4.1%
鼓ヶ浦	2.5%	1.7%
愛宕	0.9%	2.6%
旭が丘	4.3%	3.9%
栄	1.4%	2.0%
郡山	5.3%	4.8%
天名	0.7%	0.4%
合川	0.2%	0.4%
井田川北	2.7%	2.6%
井田川南	1.6%	1.1%
川崎	1.4%	2.2%
野登	1.1%	1.3%
東部	1.4%	2.2%
南部	0.9%	0.4%
昼生	0.7%	0.7%
白川	0.2%	0.2%
神辺	0.5%	1.1%
野村	0.9%	0.4%
城東	0.2%	0.4%
城西	0.5%	0.7%
城北	1.1%	2.2%
御幸	0.2%	0.4%
本町	0.2%	0.7%
北東	0.9%	0.4%
天神・和賀	0.7%	0.2%
関宿	1.1%	1.3%
関北部	0.2%	0.7%
関南部	0.7%	0.2%
坂下	0.0%	0.0%
加太	0.2%	0.7%

問 4　あなたは、現在、どのような仕事をされていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=456、第 9 期調査 n=467】

「勤めに出ている」が 71.9%で最も多く、「仕事はしていない」が 15.6%で続いています。

「勤めに出ている」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.6 ポイント増加しました。「勤めに出ている」が 7 割台を占めており、就労している人が多い状況がうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
勤めに出ている	71.9%	68.3%
自営業をしている	8.6%	8.8%
農業をしている	0.7%	0.0%
自宅で内職をしている	0.4%	0.6%
シルバー人材センターの仕事をしている	0.0%	0.2%
求職中	1.1%	2.4%
仕事はしていない	15.6%	17.6%
その他	1.8%	2.1%

問 5　あなたの世帯には 65 歳以上の方がお住まいですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=458、第 9 期調査 n=465】

「65 歳以上の方はいない」が 67.0%、「65 歳以上の方がいる」が 33.0%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「65 歳以上の方はいない」が 3.8 ポイント増加しました。65 歳以上の方がいない世帯が約 3 分の 2 を占めています。

	第10期調査	第9期調査
65歳以上の方がいる	33.0%	36.8%
65歳以上の方はいない	67.0%	63.2%

問 6　現在、あなたのご家族の中に介護が必要な方はいらっしゃいますか。
（1 つを選択）【第 10 期調査 n=458、第 9 期調査 n=466】

「いない」が 83.8%、「いる」が 16.2%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「いない」が 1.0 ポイント減少しましたが、引き続き「いない」が 8 割台を占めています。

	第10期調査	第9期調査
いない	83.8%	84.8%
いる	16.2%	15.2%

2　介護に関する考え方についてお伺いします

問 7　介護保険について知りたい情報がありますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=456、第 9 期調査 n=459】

「サービスの種類や内容」が 61.4%で最も多く、「サービスの利用料について」が 49.6%で続いています。最も少ないのは「その他」で 0.4%です。

「サービスの種類や内容」は第 9 期から第 10 期にかけて 1.3 ポイント減少しました。サービスの種類や内容に加え、利用料について知りたい人も多いことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
サービスの種類や内容	61.4%	62.7%
サービスの利用料について	49.6%	51.2%
サービスの利用手続きについて	41.2%	38.6%
サービス事業所について	29.4%	24.6%
保険料について	28.5%	25.9%
その他	0.4%	1.3%
特にない	28.1%	27.7%

要介護者の有無別クロス

要介護者の有無別にみると、有意な差はみられません。要介護者の有無によらず、求める情報の内容はおおむね共通しています。

	いない	いる
件数(n値)	383	73
サービスの種類や内容	60.6%	65.8%
サービスの利用料について	48.6%	54.8%
サービスの利用手続きについて	41.5%	39.7%
サービス事業所について	29.2%	30.1%
保険料について	29.0%	26.0%
その他	0.3%	1.4%
特にない	29.5%	20.5%

問 8　あなたは、ご家族が介護が必要な状態になった場合（現在介護をしている場合も含む）、どのようにしたいですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=454、第 9 期調査 n=461】

「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が 49.1%で最も多く、「施設へ入所・入居させたい」が 33.5%で続いています。

「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.0 ポイント減少しました。「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が最も多いものの、「施設へ入所・入居させたい」も 3 割台となっています。

	第10期調査	第9期調査
なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい	3.3%	2.0%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	49.1%	52.1%
施設へ入所・入居させたい	33.5%	31.7%
その他	2.0%	1.5%
わからない	12.1%	12.8%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「施設へ入所・入居させたい」は、男性 55～59 歳で 39.0%と多く、女性 60～64 歳では「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が 51.6%とやや多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	100	107	113	128
なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい	7.0%	4.7%	2.7%	0.0%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	44.0%	49.5%	48.7%	51.6%
施設へ入所・入居させたい	39.0%	36.4%	31.9%	28.9%
その他	1.0%	0.0%	0.9%	5.5%
わからない	9.0%	9.3%	15.9%	14.1%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「施設へ入所・入居させたい」は鈴鹿第 2 及び鈴鹿第 7 で比較的多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	46	63	50	31	43	43	53	32	44	36
なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい	2.2%	3.2%	4.0%	0.0%	4.7%	2.3%	3.8%	3.1%	2.3%	8.3%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	45.7%	42.9%	54.0%	54.8%	46.5%	53.5%	47.2%	59.4%	47.7%	41.7%
施設へ入所・入居させたい	32.6%	42.9%	28.0%	25.8%	34.9%	32.6%	37.7%	34.4%	25.0%	33.3%
その他	4.3%	1.6%	0.0%	3.2%	0.0%	2.3%	0.0%	3.1%	0.0%	8.3%
わからない	15.2%	9.5%	14.0%	16.1%	14.0%	9.3%	11.3%	0.0%	25.0%	8.3%

要介護者の有無別クロス

要介護者の有無別にみると、統計的には有意な差はみられません。

	いない	いる
件数(n値)	380	74
なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい	3.4%	2.7%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	49.5%	47.3%
施設へ入所・入居させたい	31.8%	41.9%
その他	2.1%	1.4%
わからない	13.2%	6.8%

問 8-②　問 8 で「施設へ入所・入居させたい」と回答した方にお伺いします。どのような条件が整えば、自宅で生活を続けることができると思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=151、第 9 期調査 n=145】

「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が 74.2%で最も多く、「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」が 64.9%で続いています。最も少ないのは「その他」で 5.3%です。

「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」は第 9 期から第 10 期にかけて 2.4 ポイント減少しました。必要な条件として、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」や「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」が多く挙がっています。

	第10期調査	第9期調査
在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	74.2%	76.6%
夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	64.9%	63.4%
在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	53.6%	51.7%
在宅で十分な医療を受けられる	47.7%	55.9%
介護しやすいような住宅への改修	40.4%	38.6%
一人歩き等の見守りなど、地域の支援	21.2%	16.6%
介護している方への支援	51.0%	50.3%
家事、外出など生活面の手助け	49.7%	42.8%
その他	5.3%	5.5%

3　健康についてお伺いします

問 9　ご自分の健康状態についてどう思われますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=459、第 9 期調査 n=469】

「まあよい」が 76.5%で最も多く、「とてもよい」が 12.0%で続いています。最も少ないのは「よくない」で 1.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「まあよい」は 4.0 ポイント増加しており、全体として自身の健康状態を肯定的に捉える人が多い状況がうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
とてもよい	12.0%	14.5%
まあよい	76.5%	72.5%
あまりよくない	9.8%	12.2%
よくない	1.7%	0.9%

問 10　あなたは、1 年ほど前に比べて身体の衰えを感じますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=459、第 9 期調査 n=471】

「やや感じる」が 59.5%で最も多く、「あまり感じない」が 21.8%で続いています。最も少ないのは「まったく感じない」で 3.9%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「やや感じる」は 1.9 ポイント減少していますが、依然として最も多くを占めており、身体の衰えをある程度感じている人が多い状況がうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
非常に感じる	14.8%	12.7%
やや感じる	59.5%	61.4%
あまり感じない	21.8%	24.8%
まったく感じない	3.9%	1.1%

問 11　あなたは、自分の健康や生きがいのために、どのようなことをしたいと思いますか。（2 つまで選択可）【第 10 期調査 n=437】

「趣味やスポーツを楽しみたい」が 58.8%で最も多く、「家族との時間を大切にしたい」が 46.9%で続いています。最も少ないのは「その他」で 1.6%です。趣味やスポーツ、家族との時間を重視する人が多いことがうかがえます。

	第10期調査
ボランティア活動や地域活動に参加したい	6.6%
趣味やスポーツを楽しみたい	58.8%
勉強や教養を身につけたい	9.6%
家族との時間を大切にしたい	46.9%
若い世代と交流がしたい	2.1%
仕事を少しでも長く続けたい	37.1%
特にない	5.0%
その他	1.6%

問 12　あなたには、「かかりつけ医（主治医）」または、いつもかかっている医療機関がありますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=458、第 9 期調査 n=471】

※「かかりつけ医」とは、健康を管理するために、普段から心身の状態について気軽に相談できる身近な医師のことです。

「はい」が 69.2%、「いいえ」が 30.8%となっており、約 7 割の人が、かかりつけ医または日常的に受診している医療機関があると回答しています。

第 9 期から第 10 期にかけて「はい」は 4.0 ポイント減少しており、かかりつけ医等を持つ人の割合はやや低下していますが、引き続き約 7 割の人が、かかりつけ医または日常的に受診している医療機関があると回答しています。

	第10期調査	第9期調査
はい	69.2%	73.2%
いいえ	30.8%	26.8%

問 13　日頃、健康や介護予防（介護が必要な状態にならないようにすること）のためにどのようなことを心がけていますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=457、第 9 期調査 n=471】

「毎日の食事や栄養に気をつけている」が 56.9%で最も多く、「定期的に健康診断を受けている」が 54.7%で続いています。最も少ないのは「その他」で 1.1%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「毎日の食事や栄養に気をつけている」は 3.2 ポイント増加しました。食事や栄養、健康診断に気をつけている人が多いことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
毎日の食事や栄養に気をつけている	56.9%	53.7%
睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている	47.9%	52.7%
適度に運動をしている	37.6%	34.8%
酒やタバコをなるべくひかえるようにしている	11.8%	8.9%
定期的に健康診断を受けている	54.7%	55.4%
その他	1.1%	1.3%
特に心がけていない	7.9%	10.0%

問 13-②　問 13 で「特に心がけていない」と回答した方にお伺いします。健康づくりや介護予防を心がけていない理由は何ですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=36、第 9 期調査 n=47】

「時間がないから」が 47.2%で最も多く、「めんどうだから」が 25.0%で続いています。

「時間がないから」は第 9 期から第 10 期にかけて 13.2 ポイント増加しました。健康づくりや介護予防を心がけていない理由として、時間的な制約が大きいことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
時間がないから	47.2%	34.0%
経済的な理由から	11.1%	14.9%
必要性を感じないから	11.1%	10.6%
取り組み方がわからないから	8.3%	14.9%
取り組む場所がわからないから	0.0%	2.1%
きっかけがないから	22.2%	27.7%
一人では取り組みづらいから	11.1%	8.5%
めんどうだから	25.0%	36.2%
関心がないから	11.1%	19.1%
その他	8.3%	6.4%

問 14　健康づくりや介護予防のために、地域でどのような活動があれば参加したいですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=453、第 9 期調査 n=470】

「運動に関するもの」が 37.7%で最も多く、「認知症予防に関するもの」が 30.7%で続いています。最も少ないのは「その他」で 0.7%です。

「運動に関するもの」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.4 ポイント増加しました。運動や認知症予防に関する活動への関心が比較的高いことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
食事や栄養に関するもの	28.9%	26.6%
運動に関するもの	37.7%	34.3%
同世代がふれあえる交流の場	21.9%	21.5%
子どもなど他世代との交流の場	7.3%	6.8%
ボランティア活動	13.5%	11.5%
認知症予防に関するもの	30.7%	31.3%
歯や口腔衛生に関するもの	15.9%	16.2%
その他	0.7%	0.9%
特にない	29.8%	32.3%

4　将来の介護や在宅医療についてお伺いします

問 15　あなたは、今後、自身の身体の状態が悪くなり、介護が必要となったとき、自宅で最期まで療養したいと思いますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=455、第 9 期調査 n=467】

「したいが難しいと思う」が 56.7%で最も多く、「したくない」が 18.2%で続いています。一方、「したい」は 9.9%で最も少なくなっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「したいが難しいと思う」は 0.6 ポイント増加しており、自宅で最期まで療養したい意向を持ちながらも、その実現には難しさを感じている人が多い状況がうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
したい	9.9%	10.3%
したいが難しいと思う	56.7%	56.1%
したくない	18.2%	18.0%
わからない	15.2%	15.6%

問 16　自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=448、第 9 期調査 n=455】

「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の 24 時間対応等の充実」が 46.2%で最も多く、「経済的な支援」が 40.4%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の 24 時間対応等の充実」は 9.7 ポイント増加しました。「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の 24 時間対応等の充実」や「経済的な支援」が多く求められています。

	第10期調査	第9期調査
かかりつけ医による定期的な訪問診療	24.1%	31.0%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	38.6%	42.0%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	46.2%	36.5%
24時間対応してくれる相談体制	17.2%	15.8%
介護者への支援	39.3%	39.1%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	30.4%	33.8%
居住環境の整備	21.0%	22.4%
経済的な支援	40.4%	38.7%
その他	1.3%	0.7%
わからない	4.7%	4.8%

問 17　あなたは、人生の終末期のことについて話している人がいますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=451、第 9 期調査 n=466】

「家族・親族」が 71.6%で最も多く、「そのような人はいない」が 25.3%で続いています。

「家族・親族」は第 9 期から第 10 期にかけて 4.0 ポイント増加しました。人生の終末期について話す相手としては、家族・親族が中心となっています。

	第10期調査	第9期調査
家族・親族	71.6%	67.6%
医師などの医療従事者	0.4%	0.0%
弁護士や司法書士	0.0%	0.0%
その他	4.4%	6.2%
そのような人はいない	25.3%	28.1%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「家族・親族」は女性 55～59 歳が 76.6%で最も多くなっています。一方、「そのような人はいない」は男性 55～59 歳が 31.3%で最も多くなっています。なお、回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	99	106	111	127
家族・親族	67.7%	69.8%	76.6%	71.7%
医師などの医療従事者	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
弁護士や司法書士	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	2.0%	0.9%	5.4%	8.7%
そのような人はいない	31.3%	28.3%	18.9%	23.6%

要介護者の有無別クロス

要介護者の有無別にみると、いずれも「家族・親族」が最も多くなっていますが、要介護者が「いる」人では、「そのような人はいない」が 31.9%とやや多くなっています。なお、回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には要介護者の有無別で有意な差はみられません。

	いない	いる
件数(n値)	377	72
家族・親族	73.2%	62.5%
医師などの医療従事者	0.5%	0.0%
弁護士や司法書士	0.0%	0.0%
その他	4.0%	6.9%
そのような人はいない	24.1%	31.9%

問 18　人生会議（ＡＣＰ）について知っていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=455】

※「人生会議（ＡＣＰ）」とは、もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族や信頼できる人、医療・介護の専門家と繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。

「知らない」が 84.0%で最も多く、「聞いたことはある」が 11.6%で続いています。一方、「知っている」は 4.4%で最も少なくなっています。人生会議（ＡＣＰ）の認知は十分とはいえません。

	第10期調査
知っている	4.4%
聞いたことはある	11.6%
知らない	84.0%

問 19　近年、人生を総括し、最期を迎えるに当たって様々な準備を行うことを意味する「終活」が注目されています。あなたは、何か「終活」として取り組んでいることはありますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=453、第 9 期調査 n=466】

※「エンディングノート」とは、自身の終末期や死後に、家族が様々な判断や手続きを進める際に必要となる情報を書き残すもので、市の窓口等で配布しています。

「特にない」が 57.8%で最も多く、「身の回りのものの整理や処分」が 33.6%で続いています。最も少ないのは「その他」で 2.0%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「特にない」が 0.9 ポイント増加しました。「特にない」が最も多く、終活に取り組んでいない人が過半数を占めています。

	第10期調査	第9期調査
「エンディングノート」の作成	6.0%	5.4%
遺言書の作成	2.6%	1.3%
財産の整理や相続の準備	7.5%	6.9%
葬儀やお墓の準備	3.8%	4.7%
身の回りのものの整理や処分	33.6%	35.6%
その他	2.0%	1.9%
特にない	57.8%	56.9%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、女性では 55～59 歳、60～64 歳ともに「身の回りのものの整理や処分」に取り組む割合が高くなっています。一方、男性では「特にない」と回答した人が 55～59 歳で 65.0%、60～64 歳で 60.4%と多く、事前準備への意識や行動に差がみられます。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	100	106	111	128
「エンディングノート」の作成	2.0%	2.8%	11.7%	7.0%
遺言書の作成	4.0%	2.8%	1.8%	2.3%
財産の整理や相続の準備	8.0%	10.4%	8.1%	4.7%
葬儀やお墓の準備	5.0%	3.8%	4.5%	2.3%
身の回りのものの整理や処分	24.0%	27.4%	38.7%	42.2%
その他	0.0%	1.9%	5.4%	0.8%
特にない	65.0%	60.4%	52.3%	53.9%

5　認知症についてお伺いします

問 20　将来、ご自身やご家族が認知症になることに対して、不安がありますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=454、第 9 期調査 n=469】

「おおいに不安がある」が 45.4%で最も多く、「やや不安がある」が 44.9%で続いています。最も少ないのは「不安はない」で 2.0%です。

「おおいに不安がある」は第 9 期から第 10 期にかけて 1.1 ポイント減少しましたが、「おおいに不安がある」と「やや不安がある」を合わせると 9 割を超えており、不安が高い状況がうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
おおいに不安がある	45.4%	46.5%
やや不安がある	44.9%	41.8%
あまり不安はない	7.7%	8.7%
不安はない	2.0%	3.0%

問 21　認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などの病気が主な原因となって引き起こされるため、予防したり、進行を遅らせたりすることができると言われています。あなたは認知症についてどの程度知っていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=455、第 9 期調査 n=469】

「ある程度知っている」が 60.7%で最も多く、「知らない」が 30.5%で続いています。最も少ないのは「よく知っている」で 8.8%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「ある程度知っている」が 2.1 ポイント増加しました。「ある程度知っている」が最も多い一方、「よく知っている」は 1 割未満にとどまっています。

	第10期調査	第9期調査
よく知っている	8.8%	9.2%
ある程度知っている	60.7%	58.6%
知らない	30.5%	32.2%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「よく知っている」は女性 55～59 歳が最も多く、12.5%となっています。「知らない」は男性 55～59 歳が最も多く、37.0%となっています。なお、回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	100	107	112	128
よく知っている	6.0%	5.6%	12.5%	10.2%
ある程度知っている	57.0%	62.6%	61.6%	60.2%
知らない	37.0%	31.8%	25.9%	29.7%

問 22　「認知症サポーター」（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=455】

「知らない」が 55.8%で最も多く、「名前を聞いたことがある」が 27.5%で続いています。最も少ないのは「どのような役割か知っているが養成講座は受講していない」で 7.9%です。認知症サポーターについて認知は十分とはいえません。

	第10期調査
サポーター養成講座を受講したことがある	8.8%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	7.9%
名前を聞いたことがある	27.5%
知らない	55.8%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男性 55～59 歳の 76.0%が知らないと回答しており、この年齢層の男性の割合が高くなっています。また、女性 55～59 歳の 15.2%が「サポーター養成講座を受講したことがある」と回答し、最も割合が高くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	100	107	112	128
サポーター養成講座を受講したことがある	3.0%	4.7%	15.2%	10.9%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	5.0%	4.7%	8.0%	12.5%
名前を聞いたことがある	16.0%	28.0%	35.7%	28.1%
知らない	76.0%	62.6%	41.1%	48.4%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、鈴鹿第 2、鈴鹿第 5、亀山第 1 では 60%以上が「知らない」を選択しました。一方で、鈴鹿第 6 では「名前を聞いたことがある」が 40.5%と比較的多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	47	62	50	32	43	42	53	33	43	35
サポーター養成講座を受講したことがある	12.8%	12.9%	8.0%	3.1%	7.0%	4.8%	7.5%	9.1%	2.3%	22.9%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	6.4%	8.1%	4.0%	9.4%	4.7%	11.9%	5.7%	9.1%	16.3%	8.6%
名前を聞いたことがある	23.4%	17.7%	30.0%	28.1%	27.9%	40.5%	28.3%	39.4%	20.9%	25.7%
知らない	57.4%	61.3%	58.0%	59.4%	60.5%	42.9%	58.5%	42.4%	60.5%	42.9%

問 23　「認知症サポーター」の養成講座を受けてみたいと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=450、第 9 期調査 n=462】

「受けてみたいと思わない」が 49.6%で最も多く、「受けてみたいと思う」が 42.2%で続いています。最も少ないのは「すでに受けた」で 8.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「受けてみたいと思わない」が 3.5 ポイント増加しました。「受けてみたいと思わない」が最も多いものの、「受けてみたいと思う」も 4 割台となっています。

	第10期調査	第9期調査
すでに受けた	8.2%	4.8%
受けてみたいと思う	42.2%	49.1%
受けてみたいと思わない	49.6%	46.1%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、女性 55～59 歳で「受けてみたいと思う」が 49.1%と最も多く、男性 60～64 歳では「受けてみたいと思わない」が 64.2%で最も多い結果となりました。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	100	106	110	126
すでに受けた	2.0%	4.7%	14.5%	10.3%
受けてみたいと思う	41.0%	31.1%	49.1%	46.0%
受けてみたいと思わない	57.0%	64.2%	36.4%	43.7%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、亀山第 2 では「すでに受けた」が 22.9%と比較的多く、鈴鹿第 4 では「受けてみたいと思わない」が比較的多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	46	61	50	32	43	42	52	32	43	35
すでに受けた	13.0%	13.1%	8.0%	0.0%	7.0%	4.8%	5.8%	6.3%	2.3%	22.9%
受けてみたいと思う	39.1%	37.7%	36.0%	43.8%	39.5%	45.2%	40.4%	53.1%	51.2%	42.9%
受けてみたいと思わない	47.8%	49.2%	56.0%	56.3%	53.5%	50.0%	53.8%	40.6%	46.5%	34.3%

問 24　認知症の高齢者が自宅で安心して生活するためには、介護保険サービスだけではなく地域住民の協力（見守りなど）は必要だと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=455、第 9 期調査 n=469】

「必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」が 54.3%で最も多く、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が 38.2%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」は 8.0 ポイント増加しました。地域住民の協力を必要と考える一方で、プライバシーへの配慮に難しさを感じる人が多いことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う	38.2%	43.5%
必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う	54.3%	46.3%
必要だとは思わない	2.0%	2.1%
その他	0.9%	0.4%
わからない	4.6%	7.7%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」は亀山第 2 で 48.6%と最も多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	47	62	50	32	43	42	53	33	43	35
家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う	36.2%	33.9%	40.0%	37.5%	27.9%	33.3%	43.4%	33.3%	44.2%	48.6%
必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う	55.3%	62.9%	42.0%	56.3%	60.5%	64.3%	49.1%	66.7%	46.5%	42.9%
必要だとは思わない	2.1%	0.0%	4.0%	3.1%	2.3%	2.4%	1.9%	0.0%	2.3%	2.9%
その他	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.9%
わからない	2.1%	3.2%	14.0%	3.1%	9.3%	0.0%	5.7%	0.0%	4.7%	2.9%

6　地域のたすけあいについてお伺いします

問 25　職業生活から引退（定年とは限りません）する年齢についてどのように考えていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=443、第 9 期調査 n=459】

「65～69 歳」が 34.3%で最も多く、「60～64 歳」が 21.9%で続いています。最も少ないのは「80 歳以上」で 0.5%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「65～69 歳」は 0.5 ポイント増加しており、引退時期として 65～69 歳を想定する人が引き続き最も多い状況がうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
60歳未満	1.1%	2.2%
60～64歳	21.9%	23.5%
65～69歳	34.3%	33.8%
70～74歳	17.4%	18.3%
75～79歳	4.5%	3.3%
80歳以上	0.5%	1.1%
健康な限りは何歳までも働きたい	18.1%	16.3%
その他	2.3%	1.5%

問 26　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=446、第 9 期調査 n=454】

「参加してもよい」が 60.1%で最も多く、「参加したくない」が 32.7%で続いています。最も少ないのは「すでに参加している」で 0.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加してもよい」は 1.3 ポイント増加しており、地域活動への参加に対して前向きな意向を持つ人が一定程度みられます。

	第10期調査	第9期調査
ぜひ参加したい	6.5%	7.0%
参加してもよい	60.1%	58.8%
参加したくない	32.7%	33.3%
すでに参加している	0.7%	0.9%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男性 55～59 歳および女性 55～59 歳では、いずれも約 6 割以上が参加に前向きな意向を示しています。一方、「参加したくない」は男性 60～64 歳で 40.6%と最も多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	97	106	110	127
ぜひ参加したい	2.1%	1.9%	11.8%	8.7%
参加してもよい	61.9%	57.5%	61.8%	59.8%
参加したくない	34.0%	40.6%	26.4%	30.7%
すでに参加している	2.1%	0.0%	0.0%	0.8%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、各圏域で「参加してもよい」が最も多く、鈴鹿第 6 が 73.8%、鈴鹿第 5 が 68.3%、鈴鹿第 2 が 66.1%となっています。一方、「ぜひ参加したい」は鈴鹿第 8 が 12.5%で最も多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	44	62	50	31	41	42	52	32	44	35
ぜひ参加したい	6.8%	8.1%	4.0%	6.5%	2.4%	2.4%	7.7%	12.5%	6.8%	8.6%
参加してもよい	54.5%	66.1%	56.0%	58.1%	68.3%	73.8%	59.6%	56.3%	54.5%	60.0%
参加したくない	38.6%	25.8%	38.0%	35.5%	29.3%	23.8%	32.7%	31.3%	36.4%	28.6%
すでに参加している	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.9%

問 26-②　問 26 で「参加したくない」と回答した方にお伺いします。どうすれば参加したいと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=138、第 9 期調査 n=142】

「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす」が 28.3%で最も多く、「その他」が 17.4%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす」は 7.2 ポイント増加しました。参加条件として、閉鎖的な雰囲気をなくすことが重視されていることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する	8.0%	9.9%
インターネット上の参加など、多様な参加方法を用意する	12.3%	12.7%
加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす	28.3%	21.1%
活動内容を魅力あるものにする	15.9%	19.7%
成果や貢献が具体的にみえる活動をする	1.4%	1.4%
活動内容や役割を選べるようにする	4.3%	2.8%
いろいろな住民組織が連携して、一緒の活動をする	0.0%	1.4%
参加した人が、何らかのメリットを得られるようにする	12.3%	6.3%
その他	17.4%	24.6%

問 27　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=442、第 9 期調査 n=451】

「参加したくない」が 54.8%で最も多く、「参加してもよい」が 41.0%で続いています。最も少ないのは「すでに参加している」で 1.4%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したくない」が 3.1 ポイント増加しました。「参加したくない」が 5 割台半ばを占めており、お世話役としての参加には慎重な人が多いことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
ぜひ参加したい	2.9%	2.2%
参加してもよい	41.0%	45.0%
参加したくない	54.8%	51.7%
すでに参加している	1.4%	1.1%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男性 60～64 歳の約 60%が参加を望まない意向を示し、一方で女性 55～59 歳は約 44%が「参加してもよい」と回答しました。統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	96	104	110	126
ぜひ参加したい	1.0%	1.9%	4.5%	4.0%
参加してもよい	42.7%	37.5%	43.6%	39.7%
参加したくない	53.1%	59.6%	50.0%	56.3%
すでに参加している	3.1%	1.0%	1.8%	0.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「すでに参加している」が亀山第 2 で 8.6%と最も多い一方、「参加したくない」は鈴鹿第 6 で 59.5%と最も多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	43	62	50	30	41	42	52	29	44	35
ぜひ参加したい	2.3%	4.8%	4.0%	0.0%	2.4%	2.4%	1.9%	6.9%	2.3%	2.9%
参加してもよい	41.9%	41.9%	42.0%	43.3%	43.9%	35.7%	40.4%	41.4%	47.7%	37.1%
参加したくない	55.8%	53.2%	52.0%	56.7%	53.7%	59.5%	57.7%	48.3%	50.0%	51.4%
すでに参加している	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	3.4%	0.0%	8.6%

問 28　以下のような会・グループ等に参加していますか。また参加したいですか。
※①～⑧それぞれに 1 つを選択

問 28-①　ボランティアのグループ【第 10 期調査 n=412、第 9 期調査 n=406】

「参加したくない」が 59.7%で最も多く、「参加したいがしていない」が 34.5%で続いています。最も少ないのは「参加している」で 5.8%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したくない」は 4.8 ポイント増加しました。「参加したくない」が最も多く、参加に慎重な傾向がみられます。

	第10期調査	第9期調査
参加している	5.8%	5.2%
参加したいがしていない	34.5%	39.9%
参加したくない	59.7%	54.9%

問 28-②　スポーツ関係のグループやクラブ
【第 10 期調査 n=416、第 9 期調査 n=415】

「参加したくない」が 47.6%で最も多く、「参加したいがしていない」が 40.6%で続いています。最も少ないのは「参加している」で 11.8%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したくない」は 2.8 ポイント減少しました。「参加したいがしていない」も 4 割台であり、参加意向を持つ人が一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
参加している	11.8%	6.7%
参加したいがしていない	40.6%	42.9%
参加したくない	47.6%	50.4%

問 28-③　趣味関係のグループ【第 10 期調査 n=415、第 9 期調査 n=412】

「参加したいがしていない」が 54.9%で最も多く、「参加したくない」が 34.2%で続いています。最も少ないのは「参加している」で 10.8%です。

「参加したいがしていない」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.2 ポイント減少しました。「参加したいがしていない」が最も多く、参加意向を持ちながら実際の参加には至っていない人が多いことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
参加している	10.8%	8.3%
参加したいがしていない	54.9%	55.1%
参加したくない	34.2%	36.7%

問 28-④　学習・教養サークル【第 10 期調査 n=398、第 9 期調査 n=404】

「参加したくない」が 48.5%で最も多く、「参加したいがしていない」が 47.7%で続いています。最も少ないのは「参加している」で 3.8%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したくない」が 1.7 ポイント増加しました。「参加したくない」と「参加したいがしていない」がほぼ同程度となっています。

	第10期調査	第9期調査
参加している	3.8%	3.0%
参加したいがしていない	47.7%	50.2%
参加したくない	48.5%	46.8%

問 28-⑤　健康づくりや介護予防のための通いの場
【第 10 期調査 n=403、第 9 期調査 n=407】

「参加したくない」が 49.9%で最も多く、「参加したいがしていない」が 48.6%で続いています。最も少ないのは「参加している」で 1.5%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したくない」が 0.3 ポイント増加しました。「参加したくない」と「参加したいがしていない」がほぼ同程度となっています。

	第10期調査	第9期調査
参加している	1.5%	2.0%
参加したいがしていない	48.6%	48.4%
参加したくない	49.9%	49.6%

問 28-⑥　老人クラブ【第 10 期調査 n=402、第 9 期調査 n=404】

「参加したくない」が 85.3%で最も多く、「参加したいがしていない」が 14.4%で続いています。最も少ないのは「参加している」で 0.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したくない」が 3.1 ポイント減少しましたが、「参加したくない」が 8 割台半ばを占めています。

	第10期調査	第9期調査
参加している	0.2%	0.2%
参加したいがしていない	14.4%	11.4%
参加したくない	85.3%	88.4%

問 28-⑦　町内会・自治会（※まちづくり協議会、地域づくり協議会を含む）【第 10 期調査 n=407、第 9 期調査 n=417】

「参加したくない」が 60.7%で最も多く、「参加したいがしていない」が 21.4%で続いています。最も少ないのは「参加している」で 17.9%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したくない」が 5.8 ポイント増加しました。「参加したくない」が 6 割を超えており、参加に慎重な傾向がみられます。

	第10期調査	第9期調査
参加している	17.9%	25.7%
参加したいがしていない	21.4%	19.4%
参加したくない	60.7%	54.9%

問 28-⑧　収入のある仕事【第 10 期調査 n=408、第 9 期調査 n=413】

「参加したいがしていない」が 43.1%で最も多く、「参加している」が 31.9%で続いています。最も少ないのは「参加したくない」で 25.0%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したいがしていない」は 2.2 ポイント増加しており、収入のある仕事に対して参加意向を持ちながらも、実際の就労には至っていない人が一定数いることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
参加している	31.9%	30.5%
参加したいがしていない	43.1%	40.9%
参加したくない	25.0%	28.6%

問 29　ご近所で、高齢者や障がい者のみの世帯など、困っている世帯があったら、あなたはどのような対応をしますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=442、第 9 期調査 n=452】

「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が 33.3%で最も多く、「頼まれればお手伝いしたい」が 26.0%で続いています。

「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.7 ポイント増加しました。「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が最も多く、支え合いへの意向と実際の行動との間に難しさがあることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
進んでお手伝いしたい	3.8%	2.2%
頼まれればお手伝いしたい	26.0%	30.5%
お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう	16.1%	15.0%
お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない	33.3%	29.6%
福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝う必要はない	9.5%	9.3%
その他	0.9%	2.4%
わからない	10.4%	10.8%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、女性 60～64 歳では「頼まれればお手伝いしたい」の割合が最も高くなっています。一方、男性 55～59 歳では「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」が他の層に比べて高くなっています。また、いずれの層でも「自分のことで精一杯でできない」が 3 割前後を占めています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	95	106	111	124
進んでお手伝いしたい	3.2%	2.8%	6.3%	3.2%
頼まれればお手伝いしたい	17.9%	24.5%	27.9%	31.5%
お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう	21.1%	14.2%	10.8%	17.7%
お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない	33.7%	34.0%	29.7%	35.5%
福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝う必要はない	9.5%	11.3%	15.3%	3.2%
その他	0.0%	0.9%	2.7%	0.0%
わからない	14.7%	12.3%	7.2%	8.9%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「頼まれればお手伝いしたい」は鈴鹿第 7 で 40.4%と最も多く、次いで亀山第 2 で 37.1%、亀山第 1 で 36.4%となっており、これらの圏域で比較的多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	44	61	49	29	41	42	52	31	44	35
進んでお手伝いしたい	4.5%	6.6%	4.1%	0.0%	2.4%	0.0%	3.8%	0.0%	4.5%	11.4%
頼まれればお手伝いしたい	25.0%	16.4%	30.6%	24.1%	19.5%	16.7%	40.4%	16.1%	36.4%	37.1%
お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう	15.9%	18.0%	8.2%	13.8%	22.0%	21.4%	9.6%	12.9%	20.5%	11.4%
お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない	36.4%	34.4%	34.7%	41.4%	36.6%	31.0%	25.0%	41.9%	25.0%	31.4%
福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝う必要はない	9.1%	16.4%	6.1%	6.9%	9.8%	19.0%	11.5%	9.7%	2.3%	2.9%
その他	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%
わからない	6.8%	8.2%	16.3%	13.8%	7.3%	11.9%	9.6%	19.4%	6.8%	5.7%

問 29-②　問 29 で「進んでお手伝いしたい」「頼まれればお手伝いしたい」「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」と回答した方にお伺いします。具体的にどのような手助けができると思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=203、第 9 期調査 n=215】

「見守り・声かけ」が 72.4%で最も多く、「災害時の避難の手助け」が 49.3%で続いています。

「見守り・声かけ」は第 9 期から第 10 期にかけて 7.7 ポイント増加しました。具体的な手助けとしては、「見守り・声かけ」が最も多くなっています。

	第10期調査	第9期調査
調理	6.9%	7.9%
掃除・洗濯	15.3%	13.0%
買い物（宅配は含まない）	36.0%	32.1%
ゴミ出し	42.9%	40.0%
外出同行（通院、買い物など）	20.2%	17.2%
見守り・声かけ	72.4%	64.7%
話し相手になること	42.9%	41.9%
相談相手になること	26.1%	22.3%
災害時の避難の手助け	49.3%	42.8%
防犯・防災のための巡回	17.7%	14.4%
住居内での困りごと支援（家具移動や蛍光灯の取替など）	21.7%	27.9%
その他	1.0%	0.5%

問 30　あなたは、どのような条件が整えば、地域で困っている方のお手伝いをすることができると思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=435】

「自分が得意なことを生かせるのであればできる」が 38.2%で最も多く、「活動時間が短時間（1～3 時間程度）であればできる」が 36.1%で続いています。最も少ないのは「特に条件なく活動できる」で 2.5%です。活動にあたっては、得意なことを生かせることや短時間であることが条件として重視されています。

	第10期調査
特に条件なく活動できる	2.5%
活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度などがあればできる	9.9%
適当な報酬が得られればできる	26.9%
一緒に活動する仲間がいればできる	27.6%
自分が得意なことを生かせるのであればできる	38.2%
活動範囲が近所であればできる	34.7%
活動日が休日であればできる	15.6%
活動時間が短時間（1～3時間程度）であればできる	36.1%
事前の説明会があれば条件によっては参加できる	31.0%
その他	7.6%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「特に条件なく活動できる」は男性 60～64 歳で 4.8%と最も多いものの、全体としては低い割合にとどまっています。一方、女性 60～64 歳では「活動範囲が近所であればできる」が 43.3%と最も多く、活動場所の身近さが参加条件として重視されていることがうかがえます。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	93	105	111	120
特に条件なく活動できる	3.2%	4.8%	0.9%	1.7%
活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度などがあればできる	6.5%	8.6%	11.7%	10.8%
適当な報酬が得られればできる	31.2%	31.4%	30.6%	15.8%
一緒に活動する仲間がいればできる	14.0%	21.0%	36.9%	35.8%
自分が得意なことを生かせるのであればできる	36.6%	41.0%	37.8%	36.7%
活動範囲が近所であればできる	30.1%	31.4%	33.3%	43.3%
活動日が休日であればできる	21.5%	18.1%	15.3%	10.0%
活動時間が短時間（1～3時間程度）であればできる	30.1%	37.1%	40.5%	35.8%
事前の説明会があれば条件によっては参加できる	24.7%	25.7%	36.0%	35.0%
その他	6.5%	3.8%	10.8%	9.2%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、鈴鹿第 8 では「一緒に活動する仲間がいればできる」、鈴鹿第 5 では「自分が得意なことを生かせるのであればできる」の割合がそれぞれ高くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	46	60	48	28	41	41	52	32	40	35
特に条件なく活動できる	0.0%	1.7%	6.3%	7.1%	2.4%	2.4%	1.9%	3.1%	0.0%	2.9%
活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度などがあればできる	10.9%	10.0%	4.2%	7.1%	12.2%	7.3%	7.7%	18.8%	17.5%	5.7%
適当な報酬が得られればできる	26.1%	33.3%	16.7%	28.6%	31.7%	26.8%	28.8%	31.3%	12.5%	31.4%
一緒に活動する仲間がいればできる	34.8%	23.3%	29.2%	28.6%	24.4%	22.0%	25.0%	40.6%	37.5%	17.1%
自分が得意なことを生かせるのであればできる	39.1%	38.3%	43.8%	32.1%	58.5%	22.0%	44.2%	21.9%	42.5%	28.6%
活動範囲が近所であればできる	32.6%	26.7%	39.6%	21.4%	43.9%	31.7%	40.4%	25.0%	47.5%	34.3%
活動日が休日であればできる	15.2%	20.0%	10.4%	14.3%	19.5%	17.1%	9.6%	18.8%	17.5%	14.3%
活動時間が短時間（1～3時間程度）であればできる	41.3%	41.7%	33.3%	21.4%	26.8%	36.6%	36.5%	40.6%	40.0%	37.1%
事前の説明会があれば条件によっては参加できる	28.3%	28.3%	33.3%	28.6%	34.1%	22.0%	38.5%	34.4%	35.0%	25.7%
その他	10.9%	6.7%	10.4%	7.1%	4.9%	14.6%	5.8%	3.1%	7.5%	5.7%

問 31　今、住んでいる地域（地区、自治会など）が高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、あなたはどのようなことが重要だと思いますか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=422、第 9 期調査 n=445】

「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が 35.1%で最も多く、「高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する」が 30.3%で続いています。

「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」は 2.2 ポイント減少しているものの、引き続き高い割合を占めており、緊急時の支え合いや移動手段の確保に対する関心の高さがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
子ども世代との交流を促進する	6.4%	8.3%
老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	10.9%	10.3%
近所同士のつきあいを深める	28.4%	29.4%
ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	24.2%	25.6%
地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	21.1%	22.5%
民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する	17.8%	21.1%
ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動をしてもらう	11.4%	13.5%
高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する	30.3%	29.2%
災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	35.1%	37.3%
その他	4.0%	2.2%
特にない	11.8%	10.6%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男性 60～64 歳では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が最も多く、女性 55～59 歳では「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」が比較的多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	90	101	109	116
子ども世代との交流を促進する	3.3%	6.9%	8.3%	6.0%
老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	8.9%	5.0%	20.2%	9.5%
近所同士のつきあいを深める	28.9%	28.7%	25.7%	31.0%
ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	20.0%	17.8%	30.3%	26.7%
地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	20.0%	18.8%	24.8%	19.8%
民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する	13.3%	22.8%	17.4%	16.4%
ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動をしてもらう	11.1%	12.9%	8.3%	12.9%
高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する	27.8%	28.7%	29.4%	33.6%
災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	20.0%	42.6%	34.9%	39.7%
その他	5.6%	1.0%	6.4%	3.4%
特にない	17.8%	16.8%	7.3%	7.8%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、亀山第１では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」、亀山第２では「高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する」の割合が比較的高くなっています。なお、重視する内容に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	46	59	46	28	39	39	48	30	40	35
子ども世代との交流を促進する	6.5%	10.2%	2.2%	3.6%	7.7%	7.7%	4.2%	10.0%	5.0%	8.6%
老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	19.6%	6.8%	13.0%	28.6%	7.7%	7.7%	10.4%	6.7%	12.5%	2.9%
近所同士のつきあいを深める	28.3%	22.0%	28.3%	28.6%	30.8%	28.2%	31.3%	20.0%	25.0%	37.1%
ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	23.9%	27.1%	17.4%	21.4%	33.3%	20.5%	27.1%	23.3%	20.0%	31.4%
地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	21.7%	22.0%	17.4%	17.9%	7.7%	28.2%	20.8%	16.7%	25.0%	28.6%
民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する	13.0%	16.9%	15.2%	17.9%	15.4%	7.7%	20.8%	23.3%	20.0%	22.9%
ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動をしてもらう	15.2%	16.9%	10.9%	14.3%	10.3%	12.8%	6.3%	16.7%	5.0%	5.7%
高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する	28.3%	30.5%	21.7%	25.0%	35.9%	28.2%	25.0%	40.0%	30.0%	42.9%
災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	23.9%	39.0%	32.6%	32.1%	35.9%	35.9%	29.2%	43.3%	47.5%	31.4%
その他	4.3%	1.7%	6.5%	7.1%	5.1%	5.1%	4.2%	3.3%	2.5%	2.9%
特にない	8.7%	13.6%	17.4%	7.1%	10.3%	10.3%	16.7%	13.3%	10.0%	8.6%

問 32　今住んでいる地域には、住民主体による支え合い活動がありますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=442】

「知らない」が 75.6%で最も多く、次いで「ある」が 13.1%、「ない」が 11.3%となっています。住民主体による支え合い活動の認知は十分とはいえません。

	第10期調査
ある	13.1%
ない	11.3%
知らない	75.6%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、亀山第 2 では「ある」が 26.5%と最も多く、鈴鹿第 4 では「知らない」が 93.5%と最も多くなっています。統計的には日常生活圏域別で有意な差がみられ、認知度や活動状況に違いがみられます。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	46	61	49	31	40	41	52	33	42	34
ある	8.7%	16.4%	6.1%	3.2%	10.0%	14.6%	21.2%	15.2%	11.9%	26.5%
ない	17.4%	6.6%	8.2%	3.2%	12.5%	7.3%	11.5%	9.1%	16.7%	23.5%
知らない	73.9%	77.0%	85.7%	93.5%	77.5%	78.0%	67.3%	75.8%	71.4%	50.0%

問 33　あなたは、避難行動要支援者（旧 災害時要援護者）の登録について知っていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=444、第 9 期調査 n=455】

※「避難行動要支援者（旧 災害時要援護者）の登録」とは、災害時の避難や避難所生活で、さまざまな困難が予想される高齢者や障がい者等を登録し、地域における住民同士の助け合いや支援を行いやすくするものです。

「知らない」が 83.3%、「知っている」が 16.7%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「知っている」は 2.6 ポイント増加しましたが、「知らない」が 8 割台を占めています。

	第10期調査	第9期調査
知っている	16.7%	14.1%
知らない	83.3%	85.9%

問 34　あなたは、避難行動要支援者（旧 災害時要援護者）の支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=441、第 9 期調査 n=454】

「どちらともいえない」が 66.4%で最も多く、「思う」が 17.0%で続いています。最も少ないのは「思わない」で 16.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「どちらともいえない」は 0.6 ポイント減少しましたが、「どちらともいえない」が 6 割台半ばを占めています。

	第10期調査	第9期調査
思う	17.0%	15.6%
思わない	16.6%	17.4%
どちらともいえない	66.4%	67.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「思う」は亀山第 1 で比較的多く、「思わない」は鈴鹿第 6 で比較的多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第1	鈴鹿第2	鈴鹿第3	鈴鹿第4	鈴鹿第5	鈴鹿第6	鈴鹿第7	鈴鹿第8	亀山第1	亀山第2
件数(n値)	45	61	49	31	41	41	52	32	41	35
思う	13.3%	19.7%	14.3%	9.7%	22.0%	9.8%	21.2%	3.1%	34.1%	20.0%
思わない	11.1%	19.7%	20.4%	12.9%	14.6%	34.1%	11.5%	21.9%	9.8%	11.4%
どちらともいえない	75.6%	60.7%	65.3%	77.4%	63.4%	56.1%	67.3%	75.0%	56.1%	68.6%

問 35　外出する際の移動手段は何ですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=444、第 9 期調査 n=456】

「自動車（自分で運転）」が 94.1%で最も多く、「徒歩」が 37.4%で続いています。

「自動車（自分で運転）」は第 9 期から第 10 期にかけて 2.0 ポイント増加しました。「自動車（自分で運転）」が 9 割台半ばを占めており、自動車利用が中心となっています。

	第10期調査	第9期調査
徒歩	37.4%	35.5%
自転車	16.2%	20.0%
バイク	7.0%	7.7%
自動車（自分で運転）	94.1%	92.1%
自動車（人に乗せてもらう）	13.1%	11.4%
電車	23.9%	21.9%
路線バス	5.6%	6.1%
タクシー	2.5%	3.7%
その他	0.2%	0.2%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「自動車（自分で運転）」は鈴鹿第 8、亀山第 2 で比較的多くなっています。また、「電車」は鈴鹿第 7 で比較的多くなっています。なお、各圏域で利用手段に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	46	61	49	31	41	41	52	33	42	35
徒歩	26.1%	39.3%	36.7%	32.3%	43.9%	36.6%	44.2%	33.3%	33.3%	37.1%
自転車	6.5%	23.0%	24.5%	22.6%	24.4%	12.2%	15.4%	3.0%	14.3%	11.4%
バイク	4.3%	3.3%	8.2%	3.2%	17.1%	9.8%	7.7%	6.1%	4.8%	2.9%
自動車（自分で運転）	97.8%	95.1%	95.9%	90.3%	87.8%	95.1%	88.5%	100.0%	90.5%	100.0%
自動車（人に乗せてもらう）	8.7%	8.2%	14.3%	12.9%	12.2%	17.1%	11.5%	18.2%	23.8%	8.6%
電車	15.2%	24.6%	28.6%	32.3%	24.4%	19.5%	34.6%	21.2%	19.0%	14.3%
路線バス	2.2%	13.1%	4.1%	0.0%	7.3%	7.3%	3.8%	3.0%	7.1%	0.0%
タクシー	0.0%	6.6%	6.1%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%
その他	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

7　介護や保健福祉に関する相談についてお伺いします

問 36　あなたは、介護や保健福祉サービスについて相談したいとき、まずどこに相談しますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=425、第 9 期調査 n=428】

「家族・親族」が 36.5%で最も多く、「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】」が 23.5%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「家族・親族」は 0.6 ポイント減少しているものの、引き続き最も高い割合を占めており、介護や保健福祉サービスに関する相談先として、身近な家族や親族が重要な役割を果たしていることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
家族・親族	36.5%	37.1%
友人・知人・近所の人	6.8%	6.8%
地域包括支援センター	17.2%	13.6%
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	6.8%	7.5%
介護サービス事業者	0.9%	0.7%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	23.5%	26.6%
鈴鹿亀山地区広域連合	1.4%	0.9%
主治医（かかりつけ医）	3.1%	3.7%
民生委員・児童委員	0.0%	0.2%
その他	0.5%	0.9%
相談するところがない	3.3%	1.9%

問 37　鈴鹿亀山地区には、介護サービスなどに関する身近な相談の場として、鈴鹿市内に 8 か所、亀山市内に 2 か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=449、第 9 期調査 n=450】

「地域包括支援センターのことは知らない」が 42.5%で最も多く、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない」が 32.5%で続いています。最も少ないのは「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」で 24.9%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「地域包括支援センターのことは知らない」は 1.7 ポイント減少しましたが、「地域包括支援センターのことは知らない」が最も多く、認知は十分とはいえません。

	第10期調査	第9期調査
自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	24.9%	24.0%
地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない	32.5%	31.8%
地域包括支援センターのことは知らない	42.5%	44.2%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は女性 60～64 歳で比較的多く、男性 55～59 歳で少なくなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性55～59歳	男性60～64歳	女性55～59歳	女性60～64歳
件数(n値)	98	106	110	127
自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	12.2%	17.0%	30.9%	35.4%
地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない	31.6%	27.4%	36.4%	34.6%
地域包括支援センターのことは知らない	56.1%	55.7%	32.7%	29.9%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「地域包括支援センターのことは知らない」は鈴鹿第 3 と鈴鹿第 8 がいずれも 50.0%で比較的多くなっています。一方、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は亀山第 2 が 47.2%で比較的多くなっています。なお、圏域間で回答割合に一定の違いはみられるものの、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	44	60	50	31	42	42	53	32	44	36
自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	27.3%	26.7%	22.0%	25.8%	26.2%	19.0%	22.6%	12.5%	29.5%	47.2%
地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない	38.6%	33.3%	28.0%	25.8%	28.6%	33.3%	41.5%	37.5%	29.5%	25.0%
地域包括支援センターのことは知らない	34.1%	40.0%	50.0%	48.4%	45.2%	47.6%	35.8%	50.0%	40.9%	27.8%

問 38　「地域包括支援センター」の役割として知っているものはどれですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=445】

「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」が 45.4%で最も多く、「知らない」が 43.8%で続いています。最も少ないのは「成年後見制度の利用支援」で 7.0%です。「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」としての認知が最も多い一方、「知らない」も 4 割台となっています。

	第10期調査
要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う	19.3%
高齢者虐待の相談、対応	11.9%
成年後見制度の利用支援	7.0%
介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口	45.4%
要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施	23.6%
生活機能の低下がみられた方（要介護認定の非該当者、基本チェックリスト該当者等）に向けたプログラム（介護予防教室等）の実施・紹介	15.3%
高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくり	11.2%
高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくり	13.9%
ケアマネジャーへの支援や指導	22.2%
知らない	43.8%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域を問わず、「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」としての認知がみられる一方、「知らない」と回答した人も 4 割前後となっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	46	60	49	31	40	42	52	31	44	36
要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う	23.9%	28.3%	14.3%	12.9%	20.0%	21.4%	15.4%	16.1%	20.5%	22.2%
高齢者虐待の相談、対応	10.9%	15.0%	12.2%	9.7%	12.5%	14.3%	13.5%	9.7%	11.4%	11.1%
成年後見制度の利用支援	4.3%	11.7%	4.1%	6.5%	5.0%	11.9%	3.8%	6.5%	4.5%	13.9%
介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口	43.5%	38.3%	42.9%	35.5%	47.5%	45.2%	51.9%	48.4%	45.5%	63.9%
要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施	30.4%	26.7%	20.4%	22.6%	27.5%	21.4%	19.2%	12.9%	20.5%	33.3%
生活機能の低下がみられた方に向けたプログラム（介護予防教室等）の実施・紹介	17.4%	21.7%	10.2%	16.1%	12.5%	11.9%	21.2%	16.1%	6.8%	19.4%
高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくり	19.6%	10.0%	12.2%	3.2%	15.0%	11.9%	7.7%	6.5%	11.4%	16.7%
高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくり	23.9%	15.0%	6.1%	6.5%	15.0%	14.3%	13.5%	12.9%	11.4%	25.0%
ケアマネジャーへの支援や指導	23.9%	20.0%	18.4%	19.4%	17.5%	31.0%	28.8%	19.4%	22.7%	22.2%
知らない	41.3%	46.7%	49.0%	51.6%	50.0%	42.9%	32.7%	45.2%	45.5%	25.0%